

早明浦ダム再生事業環境検討委員会 第5回委員会

第4回委員会における委員指摘事項とその対応

令和3年12月2日

独立行政法人水資源機構
池田総合管理所
早明浦ダム再生事業推進室

第4回委員会における委員指摘事項とその対応 1

早明浦ダム再生事業環境検討委員会(第4回)

開催日時: 令和3年3月2日(水) 14:00~16:00

開催場所: 高知市文化プラザかるぼーと11階大講義室

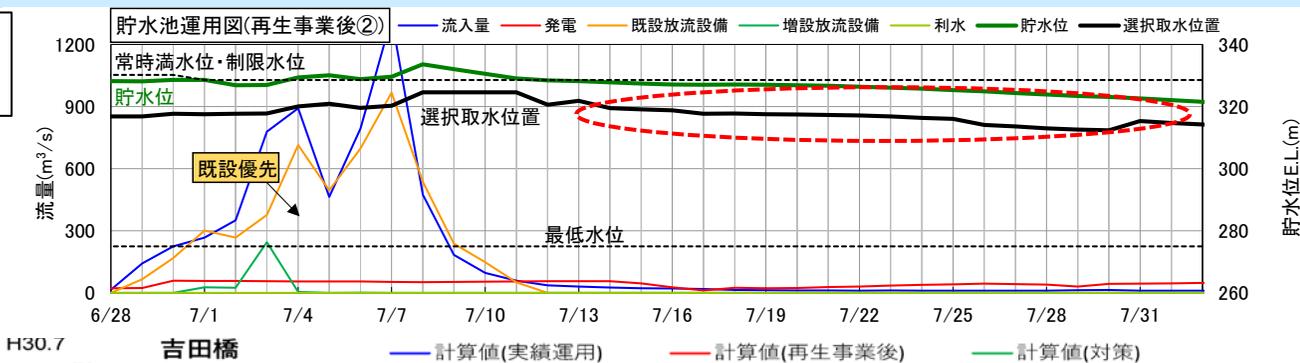
整理番号	指摘事項	対応
1	今回の試験移植の結果を見ると個体移植(小さい株)は定着率が高いため、今後シランを移植する場合は播種はせず、個体移植が良い。	事業実施区域内のシランについては、今後、事業者の配慮事項としての移植を予定しており、試験移植の結果を踏まえて、個体移植を実施します。
2	水質の濁質では、SS25mg/l、濁度10度という評価基準を設定しているため、評価根拠の説明を明記しておくこと。その他の環境区分についても同様に明記すること。	大気環境や水環境などの各環境区分毎に設定している評価基準の根拠について明記します。 →【前回委員会後に全委員の承諾の上、委員会資料の修正にて対応。】
3	水質の予測地点は吉田橋、本山橋、大豊、銅山川合流前の4箇所ある。予測地点毎にどのような基準に基づいて、最終的にどのような評価をしたのかを丁寧に説明する必要がある。	水環境(水質)や動物、生態系のうち水質の変化による影響を予測・評価する上で、予測地点(区間)毎に丁寧に説明します。 →【前回委員会後に全委員の承諾の上、委員会資料の修正にて対応。】
4	p21の濁水予測結果のグラフにおいて、出水後期に濁度10度付近で段々になっている。原因を確認いただきたい。	貯水池運用図を元に出水後の貯水位の変化と選択取水設備の取水位置の変化と水質シミュレーションにおけるメッシュ分割(1m×1m)による隣接セルにおける計算値の差が原因となっております。また、土砂による水の濁り(濁度)は、直近10力年の予測計算の日平均値にて評価していることから、提示するグラフは日平均値を用いるグラフにて統一することと改めさせていただきました。 →【前回委員会後に全委員への説明・承諾を受け、委員会資料の修正にて対応】
5	動物に関してはマニュアルに基づき調査され、生息の実態が把握されており、問題はない。 特に猛禽類に関しては広域定点の実施により行動圏の内部構造も把握されている。動物の動きは不確実性が大きいため今後モニタリングしながら、順応的に対応していくという事で良い。	今後も保全計画を策定し、モニタリングをしながら、順応的に対応してまいります。

第4回委員会における委員指摘事項とその対応 2

整理番号	指摘事項	対応
6	植物に関しても、きちっと評価されて、予測結果、環境保全措置の内容はこれで良い。	—
7	昆虫に関しても同様である。	—
8	水温の影響予測では、保全措置の効果で一番重要なことは、急激な水温低下が改善できたことが生物にとって一番大きいこれをまず前面に出して、そのうえで水温低下の幅も5℃未満に抑えることが出来たため、水温変化も小さいと言う表現の方がわかりやすい。	保全措置の効果として重要な急激な水温低下の抑制について最初に説明して参ります。併せて、環境レポート等の公表資料では、わかりやすい表現に努めます。
9	生態系(典型性(河川域))の評価でも、ダム直下区間の1kmのところかどうかという評価を追記する必要がある。	予測区間毎に影響予測の結果及び評価を行うと共に特に水質の変化が予測されるダム直下のI区間を考慮して、水質の変化と生物が影響を受ける水質の変化から予測結果を整理し直しました。 →【前回委員会後に全委員の承諾の上、委員会資料の修正にて対応。】
10	この地域には素晴らしい自然があるため、人と自然との触れ合いの活動の場として建設発生土受入地を有効利用して欲しい。	建設発生土受入地の跡地利用については、今後、地元のご意見を聞きながら、利用方法を検討いたします。
11	人と自然との触れ合いの活動の場は、客観的で冷静な評価がされている。今後の水機構の事業、ダム事業全体として共有していただけるとありがたい。	景観及び人と自然との触れ合いの活動の場における本事業独自の環境への影響予測・評価については、弊社の技術研究発表会にて社内共有するとともに、環境レポートでもとりまとめていきます。
12	廃棄物については、建設副産物の想定される発生量に対して処理計画及び有効利用が適切に検討されていることを確認した。	—

(参考) 【整理番号4】土砂による水の濁りの予測結果グラフの変更点

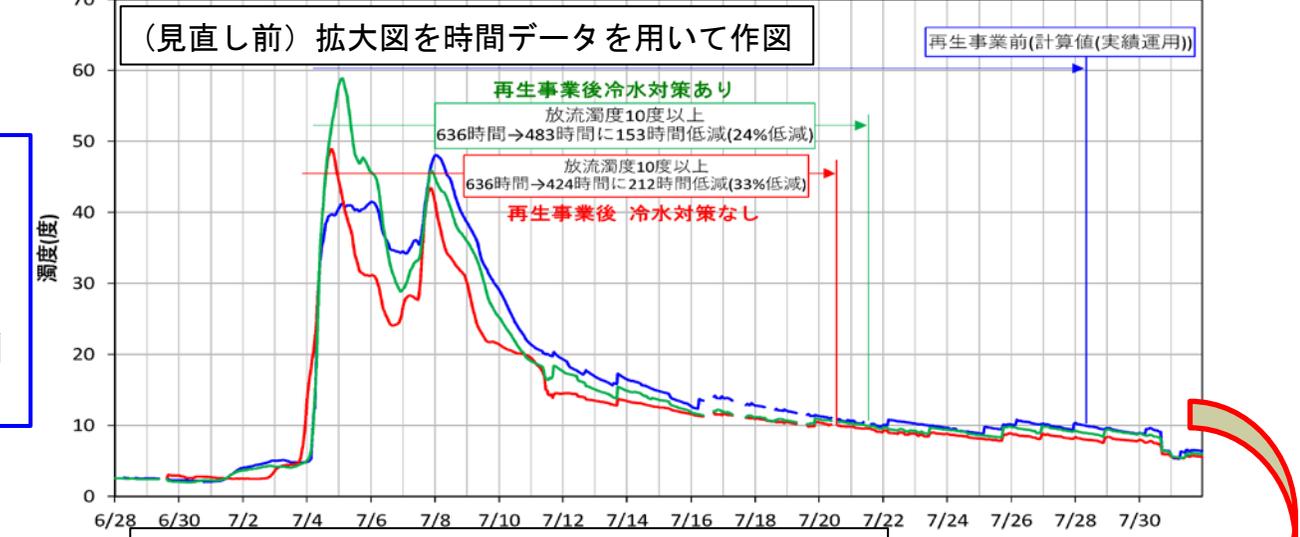
流入量・放流量・貯水位 (環境保全措置 (水温) あり)
H30. 7出水時



濁度予測結果(吉田橋)
H30. 7出水時

(委員指摘事項の要因)

出水後の貯水位の変化に応じて選択取水設備の取水位置を変えている。
これに伴い水質シミュレーションにおける隣接セル(メッシュ分割(1m×1m))での計算値の差(不連続性)がグラフに現れ、取水標高が変わる際に濁度の予測値の上昇が見られる。



(見直し後の対応方針)

土砂による水の濁り(濁度)は、直近10力年の予測計算の日平均値にて評価していることから、提示するグラフは日平均値を用いるグラフにて統一

